

ネオ・シルクロードの起点から

プロジェクト

監修
佐々保雄
(北海道大学名誉教授)



ネオ・シルクロードの起点から

日韓トンネル

ネオ・シルクロードの起点から

プロジェクト

日本と4つの大陸を高速交通システムで結ぶ今世紀最大のスーパープロジェクト、
国際ハイウェイの建設は、

1981年11月の第10回「科学の統一に関する国際会議」で提唱され、
その起点となる「日韓を結ぶトンネル」の調査工事はすぐに開始された。

それから10余年。

これは、その実態を明らかにした唯一の総合レポートである。

日本図書館協会選定図書

世界日報社

監修
佐々保雄
(北海道大学名誉教授)

世界日報社

目次

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 国際ハイウェイ建設の発端 | 5 トンネル屋の気概 |
| 2 日韓トンネル建設の現実的な意義 | 6 周辺地域の開発と展望 |
| 3 本格調査と研究の充実 | 7 経済効果と資金調達 |
| 4 地質調査結果と諸問題 | 8 東アジア経済圏へ続く道 |

定価:2000円(本体1942円) ISBN4-88201-051-8 C0036 P2000E

No. 137 (1/7)

第一章 国際ハイウェイ建設の発端	9
------------------	---

西堀栄三郎の受けた感動

「石橋を叩けば渡れない」

必要な「異質の協力」

国際ハイウェイ建設提唱の核心

文鮮明師と「統一運動」

「科学の統一」に関する国際会議」の歴史

第二章 日韓トンネル建設の現実的な意義	37
---------------------	----

佐々保雄の受けた感慨

「日韓トンネルはいつごろ完成するのか」

総括委員長の報告

国際ハイウェイはポスト冷戦時代の人類の共通目標

東アジアハイウェイと日韓トンネルの経済効果

英仏海峡トンネルの開通

日韓関係から見た「日韓トンネル」の意義

第三章 本格調査と研究の充実	65
----------------	----

「日韓トンネル研究会」の発足

佐々保雄の会長就任挨拶

動き出した研究会

金山政英元駐韓大使の持論

日韓トンネル研究会九州支部の発足

韓国での日韓トンネル研究

「技術協力ほど親善に役立つものはない」

第四章 地質調査結果と諸問題	93
----------------	----

トンネル建設のための地質調査

トンネル工法

現地からの報告

第一章 国際ハイウェイ建設の発端 9

西堀栄三郎の受けた感動

「石橋を叩けば渡れない」

必要な「異質の協力」

国際ハイウェイ建設提唱の核心

文鮮明師と「統一運動」

「科学の統一」に関する国際会議」の歴史

第二章 日韓トンネル建設の現実的な意義 37

佐々保雄の受けた感慨

「日韓トンネルはいつごろ完成するのか」

総括委員長の報告

国際ハイウェイはポスト冷戦時代の人類の共通目標

東アジアハイウェイと日韓トンネルの経済効果

英仏海峡トンネルの開通

日韓関係から見た「日韓トンネル」の意義

第三章 本格調査と研究の充実 65

「日韓トンネル研究会」の発足

佐々保雄の会長就任挨拶

動き出した研究会

金山政英元駐韓大使の持論

日韓トンネル研究会九州支部の発足

韓国での日韓トンネル研究

「技術協力ほど親善に役立つものはない」

第四章 地質調査結果と諸問題 93

トンネル建設のための地質調査

トンネル工法

現地からの報告

第二部会△地形・地質▽の報告

第三部会△設計・施工▽の報告

①道路トンネル計画

②第三部会提示案

③鉄道トンネル案

④第二部会提示案

⑤沈埋トンネル案

⑥沈設（水中）トンネル案

⑦呼子―壱岐間橋梁計画

第五章 トンネル屋の気概 123

トンネル技術者の夢

「関門」から「青函」、そして「日韓」へ

用途は多目的に

海上基地で工期短縮

自然との調和を図る

第六章 周辺地域の開発と展望 137

美しい島々、「壱岐」と「対馬」の未来像

壱岐の現実と問題点

壱岐の可能性と方向づけ

四町のこれからのテーマ

対馬の現実と問題点

ニューTSUSHIMAへの提案

「ニューアイランズ構想」の要件

東松浦・唐津・多久の将来イメージ

玄海コースタルリゾート構想

多久・鳥栖シリコンバレー構想

第七章 経済効果と資金調達 161

東北アジア諸国の資源・産業と交流

東北アジア四カ国間の貿易

東北アジアの経済開発プロジェクト

日韓トンネルの交通量想定

東アジア高速道路網・日韓トンネルの開発効果

東アジア高速道路網への資金調達

ジャパン・マネーの活用策

資金調達法の提案

第八章 東アジア経済圏へ続く道 191

東アジア共同体の成立

好転した世界情勢

経済共同体成立の三つの条件

日本のリーダーシップのとり方

日韓中の国際プロジェクト

動き出した中国

「富を得るには道を造れ」

資料篇 217

・国際ハイウェイ・日韓トンネル・プロジェクト関連年表

・国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会組織図

・日韓トンネル研究会役員

・日韓トンネル研究会九州支部役員

・日韓トンネルルート案 ・ルート別縦断面図

・ルート別路線比較 ・他の海底トンネルとの比較

あとがき 229

西堀栄三郎の受けた感動

一九八一年一月八日、晩秋のソウルは時々雪がちらつき寒かった。半島では三寒四温が日本よりも典型的に現れる。完成したばかりのロッテホテル、ロッテデパートの高層ビルの間を、冷たい風が吹き抜け、人々はオーバーの襟を立てながら迎えるバスに乗り込んだ。

暮れゆくソウルの街を、バスは一〇分くらい走って、メインストリートの世宗路にある世宗文化会館に到着した。この豪華な会館は、李氏朝鮮の第四代国王・世宗を記念して建てられたものである。世宗は、当時の学者を動員してハングルを作った国王として有名で、韓国人にもっとも尊敬されている歴史上の人物の一人である。

その世宗文化会館において、第一〇回「科学の統一に関する国際会議」(ICUS II アイカス=International Conference on the Unity of the Sciences)の歓迎会が開かれていた。参加者は世界一〇九カ国から七七〇名、そのうち一〇名はノーベル賞受賞者である。まさに韓国の歴史上初めての大規模な国際会議であった。

壇上で歓迎のスピーチを行っているのは、ICUS創始者の文鮮明師、世界基督教統一

神霊協会(略称「統一教会」)の創始者で、韓国が生んだ世界的な宗教指導者である。英語でのスピーチは、既にパンフレットになって参加者に配られている。そのタイトルは「国際ハイウェイ建設の提唱」となっていた。

文師のスピーチを聞きながら、ある種の感動に包まれている日本人がいた。西堀栄三郎——第一次南極越冬隊長を見事に務めたことで有名なエンジニアであり発明家、また登山家であった。西堀は、ICUSの議長団の一人である、ワインバーグ・米国オークリッジ・エネルギー分析研究所所長と原子力開発を通じて長年の懇意であり、彼からの誘いでICUSに参加するようになった。

文師の話は「世界の貧富の格差や民族対立、人種対立を克服するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しよう」というものであった。そしてパンフレットには、その最初の段階として、日本から韓国に渡り、さらに中国に至るアジアハイウェイの計画図が示されていた。日本と韓国の間は当然、海で隔てられている。計画図には九州から杣岐、対馬を経て釜山に至るルートが描かれており、海底トンネルを構想していることは明白であった。日韓トンネルである。その時、西堀の頭に浮かんできたのが、最近、日本山岳会の会長を自分と交代したばかりの佐々保雄であった。

佐々の話に移る前に、その時の西堀の感動を再現してみたい。西堀は日韓トンネルの完成を見ることなく、一九九〇年に逝去したが、一九八二年に設立された、国際ハイウェイ

資料提供

- ・ 国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会
- ・ 財団法人亜細亜技術協力会・日韓トンネル研究専門委員会
- ・ 国際ハイウェイ研究会（韓国ソウル）
- ・ 韓日トンネル技術研究会（韓国ソウル）

編集協力

- ・ 本郷路社

日韓トンネルプロジェクト

——ネオ・シルクロードの起点から

平成五年四月七日 第一刷発行

監修／佐々 保雄

編著／国際ハイウェイ建設事業団

定価／二、〇〇〇円（消費税込）

発行所／株世界日報社

東京都渋谷区宇田川町一二の九

郵便番号 一五〇

電話 東京〇三―三四七六―三四一一

振替 東京一―九二五六〇

印刷／中央精版印刷

もし乱丁・落丁、その他不良な場合がありま
したら、お取り替えいたします。お買い求め
の書店が弊社へお申しいでください。

佐々 保雄（ささ やすお）

明治40年、北海道生まれ。

昭和5年、東京帝国大学理学部地質学科卒業、北海道大学理学部地質
学科教授をへて、同大学名誉教授。

日本鉄道建設公団青函（トンネル）建設局地質顧問、日本山岳会会長、
日韓トンネル研究会会長を歴任し、現在に至る。